

【実施報告】

5月23日(木)、公共政策大学院では、駐日欧州連合(EU)特命全権大使パトリシア・フロア閣下をお迎えして本学学生向けの講演会を開催しました。

フロア大使は「日欧関係の新時代へ(“A New Era for EU-Japan Relations”)」と題した講演の中で、安全保障、人道的援助、人権問題といった政策分野におけるEUの政策・ミッションを詳説し、EUと日本が手を携えることの重要性、とりわけ両者の間で2018年に署名された「日EU戦略的パートナーシップ協定(SPA)」および「日EU経済連携協定(EPA)」を中核として、安全保障、科学技術、教育、文化の面でのパートナーシップをさらに深化させ、具体的な行動へと移していくことの意義を強調されました。

講演に続く質疑応答では、出席者からさまざまな質問が出ました。公共政策大学院2年の和泉優大さんはEUにおける紛争問題や少子化問題について、同大学院1年の近藤パドリックさんはEU域内における保守派やポピュリズムの問題について質問しました。これら以外の質問も含め、大使は全ての質問に丁寧に答えてくださいました。

今回の講演会には、笠原正典総長職務代理、遠藤乾公共政策大学院院長、同大学院の小浜祥子准教授、そして200人を超える学生が公共政策大学院、法学部、文学部、経済学部等から出席し、会場は満席となりました。講演後、出席した学生からは「EUと日本がもっと結びつきを強める必要があると感じたし、自分もいずれそれに関われるようになりたい」「日本もEUのように女性が胸を張って活躍できる社会になればよいなと思った」「ヨーロッパに留学したいのでEUについて改めて勉強したい」「もっと英語を勉強したくなった」といった感想が寄せられました。なお講演・質疑応答はすべて英語で行われました。